

北広島町観光振興まちづくり計画 第3回策定委員会の主な意見

課題	意見
<p>全体構成等</p>	<p>■目標数値の具体的な数値（来訪内容別目標数値）は、取組内容を見た後に記載した方が良いのではないか。</p> <p>■「基本理念・将来像」からいきなり「目標数値」では唐突感がある。「具体的施策の全体構成」の後に「現状と課題」、「目標数値」としてはどうか。（事務局）</p> <p>・目標数値のうち、大目標（入込観光客数と観光消費額）は前段に記載し、具体的な内訳（来訪内容別目標数値）は、評価指標として点検・評価に記載したい。</p> <p>■今回の第二次観光振興まちづくり計画は、広く町民が見ることのできるのか。（事務局）</p> <p>・計画は全てホームページ上で公開予定だが、印刷して配布するものではない。</p> <p>■全体に繋がるという意味で、最初に推進体制整備がくるのではないか。（事務局）</p> <p>・色々な取組を最後に誰がやるのかを書いておく必要があり、全体に繋がるという意味でも最後に推進体制を書きたい。</p>
<p>基本理念・将来像</p>	<p>■基本理念（何度も訪れたい「きたひろツーリズム」）は観光客の立場、将来像（地元愛あふれるまち「北広島」）は受入側の立場であり、矛盾を感じる。</p> <p>■計画名に「まちづくり」が入っているが、中身としては、まちづくりではなく観光振興計画にならないといけない。</p> <p>■観光は、まちづくりが進まないとなり立たない。観光計画として地元愛をうたうことに特に違和感はない。</p> <p>■「地元愛あふれる」が、計画の内容からはあまり読み取れない。地元住民のホスピタリティをしっかりと育てることが目的かと思うが、地元愛を醸成するような事業は最後に少し触れているだけであり、整合性が取れていない気がする。</p> <p>■「地元愛あふれるまち「北広島」は、将来像というよりは、北広島観光の基本理念になるのではないか。理念と将来像は逆でも良い。</p> <p>■「地元愛あふれるまち「北広島」を基本理念とした場合、将来像の「何度も訪れたい「きたひろツーリズム」は不要ではないか。（事務局）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の委員会の議論でも、ベースとして重要なのは地元の人の意識であるとの話になり、観光計画として地元愛をうたっている。 ・計画として地元愛の醸成を打ち出すため、構成の最初に位置付け、地元愛の醸成→観光関連産業育成→受入側の魅力・環境整備→誘客事業の推進の順番に変更したい。 ・基本理念は北広島観光の根底に流れるものと考え、「地元愛あふれるまち「北広島」」を基本理念としたい。基本理念だけを掲げて将来像は言葉では示さず、表紙のタイトルにも基本理念を書くこととする。 ・具体的施策の全体構成は、地元愛を最初に書き、最後に推進体制の整備で横串を刺すという計画に修正したい。
<p style="text-align: center;">農山村体験 交流事業</p>	<p>■民泊家庭の確保・民宿（簡易宿所営業）許可取得支援、外国人向け「ファームステイ」とあるが、農林水産省の事業にある、農林漁業体験民宿やファムトリップは本町ではどうか。</p> <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林漁家民宿は、農家をやっているだけで許可が取れるように簡易宿所営業許可が規制緩和されたものであり、宿泊旅館業の中では簡易宿所に属すると理解している。営業許可が必要ないものは、子プロ（農林水産省）と体験型修学旅行（県の指針）だけだが、その民泊家庭は確保しつつ、農林漁業体験民宿をはじめ営業許可取得が必要となる方をしっかりやっていきたいとの趣旨で記載した。
<p style="text-align: center;">インバウンド 対応</p>	<p>■先般、廿日市市に韓国人のツアーがたくさん宿泊しており、話を聞くと、杉原さん（北広島町旅館民宿業振興会）の紹介で来られたとのことだったが、広域連携に吉和との連携は入らないのか。</p> <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドは色々な取組がある。また、日本人向けの既存の取組で、お金をかけずにインバウンドにも生かせることもある。そのため、インバウンドについては、まずは戦略会議を開いてから進めることとしている。
<p style="text-align: center;">観光大使</p>	<p>■人にクローズアップしたようなものも良い。アメリカのタイム誌に「世界で最も影響力のある 100 人」というのがあるが、北広島に影響を与えた人を選ぶのも面白い。</p> <p>■100 人となると、地域が狭すぎて、人材の選定が難しい面もある。</p> <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内から観光大使を選出しても良いと思っている。また、例えば「きたひろ 100 人」等を選定することにより、やる気を持って観光に取り組む人が増えると良いと思う。実際に動いてくれる人を積極的に認定し、メディアに出演する際の肩書きとして利用しても良いと思っている。

■私の観光大使のイメージは少し異なり、もう少しハードルを高くして、観光プログラムやおもてなしのプログラム設計ができる人、野外活動で重要になる安全面のことをきちんと考えられる人、ガイドでも対人コミュニケーションがきちんと取れる人等を認定できたら良い。北広島を盛り上げたいという共通した価値観を持っていることも重要かと思う。

■町内の観光大使は、お店の人（道の駅の駅長やホテルのフロント等）のイメージがあり、任命者は年に1回でも研修等で情報共有をするのはどうか。それぞれの専門分野の人となると難しくなる。県のおもてなしのようなバッジをつくり、バッジを付けた観光大使のような人が町内の至るところにいたら面白いかもしれない。

（事務局）

・町内には、北広島の情報を発信して盛り上げたい一般の方々も多いため、そういう方々をもう少し後押しできるものがないか、大使というよりは、その思いをサポートできるようなシステムがないかと考えている。

・役場と一緒にやっていく推進組織のメンバーをコア人材として、その周りには「きたひろ案内人」がおり、更にお店の人という層があるなど、何段階かあると考えている。お店の人までが一体となって観光客を迎える体制を整えると、観光客は、町内どこでも観光大使のような人に会えるということになる。

■この人がいるから会いに行ってみようといった、人が動くことで観光になっていくのかなと思う。コアな人達を育てていけるようになれば、観光だけでなく、スポーツ等色々な面で効果があると思う。

■コアな人材も世代交代していかなければならない。次の若い人達が出てこれるような雰囲気をつくっていく必要があると思う。

（事務局）

・世代によって会いに行きたい人は変わっていくと思う。場所ではなく人というのは良く理解できる。北広島町の各事業者は、お客様と接してコミュニケーションを取ることが重要になり、それができる人を任命していきたい。

■コミュニケーションを取り、リピーターを増やして、広島近郊の親子連れが何度も訪れてくれるようになれば良いと思う。

■ただ実行するだけの人はいくらいると思うが、継続性を高めるためにはコアな人が必要だと思う。最初に一時的に稼働させるのは簡単だが、二次的に継続していくためには、ある程度明確なルールをつくってやらないと続かない。この計画がうまく回るためには、その辺りを深く考えて大使を任命する必要があると思っている。

<p>表紙(案)について</p>	<p>■イラストで構成された案が良い。また、町花(ササユリ) やりんごはあった方がよい。</p> <p>■観光客目線のイラストになっているため、地元愛を打ち出すためにも、受入側の地元の人(ガイド等)を入れて地域愛の要素も出して欲しい。舞太郎も表紙の右上か裏表紙等、どこかに入れたらどうか。</p>
<p>推進体制</p>	<p>■横串を刺すこと(庁内の情報共有化)は、今後の商工観光課の役割である。</p>
<p>観光拠点</p>	<p>■観光拠点に「芸北高原の自然館」を加えて欲しい。除雪の整備等かなり費用も必要になるかと思うが、島根県や戸河内から訪れる人の玄関になるので、検討して欲しい。</p> <p>■人材育成では、当研究会でもガイドを養成しており、そこへの「支援」という言葉を加えて欲しい。具体的をお願いしたい支援内容は、専門家の派遣や費用補助、場所の提供、プロモーション等。</p> <p>(事務局)</p> <p>・「芸北高原の自然館」の拠点化について、芸北支所からも通年営業(現在は冬季閉鎖)ができれば良いとの意見は出ていた。通年営業可能になれば、拠点にもなり得る。</p>
<p>広域連携事業</p>	<p>■広域観光連携事業の中で安芸太田町観光連携・サイクリングイベント検討とあるが、西中国山地国定公園を加えて欲しい。自然資源活用事業では記載があるが、安芸太田町としてはその部分を言葉で出しておきたい。</p> <p>■広域連携は、具体的な名称を挙げなくても良いのではないか。実際に広島宮島岩国で動いているが、もっと広域にやっているものもあり、広島広域都市圏観光連携だけで良いと思う。</p>
<p>エコツーリズム</p>	<p>■町民課(環境管理係)のエコツーリズム事業は、計画に入れないのか。事業内容は、大朝のわさ環境農業公園を拠点に環境をテーマにしたツアー等を提案するもので、予算を付けて既に実施しており(今年で2年目)、今後も継続予定と聞いている。農山村体験交流事業や子プロとも関連があり、大朝だけでなく、芸北せどやま事業ともかかわりがある。</p> <p>■本町は、太陽光や小水力等の新エネルギー、バイオマスエネルギーを積極的に活用しており、新エネビジョンやバイオマスタウンに認定されているが、それが活かされていないと感じる。研修や視察等での来町も増えており、観光という側面はあるため、計画の中に盛り込んでおくことは必要かと思う。</p>